



秋の色（豊内）

うたごよみ 師走

〔短歌〕

米納三雄選

可愛くて元気いっばいの幼児らは歌声贈る敬  
老会に 井上ユリ子  
実の一つ残さず柿は紅葉して鋭き一声百舌鳴  
き渡る 上村 かず  
生々しい奇跡の救出の瞬間を写すテレビに釘  
付けとなる 吉永由紀子  
我が町にオーケストラがやって来て学童との  
共演に拍手は止まず 上村 やす美  
晩秋の暮れ行く町に時告ぐるメロデー今日は  
もの哀しかり 内山タミエ  
一年の成果発表の文化祭それぞれの顔輝きて  
おり 緒方 明美  
色濃く満開となる百日紅花びら散りし秋を迎  
える 赤星 延子  
優雅なる月下美人に頼寄せて朝なき花に列れ  
を惜しむ 塚原 晁益  
一人居の吾を気遣い人中に出よと友言うデイ  
ケアに行く 本田富美子  
豪雨にて奄美大島の災害にグループホームの  
死者を悼めり 松本ぬい子  
毎朝を鏡に写す吾が顔に「今日もよろしく」  
と微笑みてみる 森田 房恵  
ようやく西の方より空晴れて産業文化祭は  
賑わう 内田乃武子  
恋人も妻も無き吾に届きたる「ご同伴にて参  
加」のチラシ 渡辺 幸士

〔川柳〕

〔年金〕

年金をまた貰いたい今月も 内村 邦炎  
掛けた年金見えぬ老後の命綱 緒方 瑞枝  
年金に似合う一泊山のお湯 北 仁子  
年金日ご先祖様に感謝する 古閑チヨミ

〔紅葉〕

紅葉の心もそぞろ秋の旅 道上キヌ子  
久々に紅葉見物楽しみに 福田 清子  
朝毎に庭に散り敷く柿紅葉 成松 松枝  
年金で今年も紅葉見られます 布田 愛子

〔足〕

五分間正座が出来ぬ錆びた足 伊豆野ヤエ  
散歩道途中で拗ねる膝小僧 丸岡はる子  
露出度の大きい足に眼が走る 林 雅之  
獅子舞いの足が膏葉貼っている 渡辺 幸士

〔俳句〕

秋晴れや光集めて濯干す 堀田 孝恵  
冬朝日光に包まれ合掌す 本田 信子  
紅葉狩りお土産頂く山の幸 古田 幸子  
心の窓全開にする秋日和 楠本 美鶴  
船頭の渋き唄声水澄めり 高田れい子

■お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局  
☎096・234・1111（内線321）

# ひとの動き (敬称略)

10月11日(月)～11月10日(水)

## birth お誕生おめでとう

住所	氏名	性別	保護者
糸田	松野航己	男	誉弘
有安	中島麻悠	女	昭二郎
有安	中島悠梨	女	昭二郎
大早	川田仲巧	男	和也
下早	川田新木	男	革
下豊	横内竹しる	女	秀一
下豊	横内富岡	男	文俊
白旗	高崎限陽希	男	俊
		女	徹

## marriage ご結婚おめでとう

住所	氏名
〔夫〕 麻生原	片岡 義和
〔妻〕 大津町	合志 さゆり
〔夫〕 早川	大隈 圭輔
〔妻〕 菊陽町	矢野 真希
〔夫〕 緑町	藤本 誠也
〔妻〕 御船町	湯浅 花代

## condolence お悔やみ申し上げます

住所	氏名	年齢	世帯主
坂谷	井芹 典治	76	典治
田口	福田 昭春	83	誠子
南三箇	岩村マサ	96	義光
上早川	高崎 修	68	喜代子
小鹿	花園夕ズ	93	敏郎
中横田	田端 陸雄	90	慶子
横田	増田 政男	86	文子
府領	本田 昌博	49	ひろみ
中横田	松並 三鶴	84	保美
白旗	佐藤 春野	98	春野
豊内	甲斐ヒサ子	95	詠二

## Data 甲佐町の人口・世帯数

項目	数	増減
男	5,402	△2
女	6,142	△4
計	11,544	△6
世帯数	4,180	△4

平成22年10月31日現在

〔町史編さんだより〕

甲佐町に強く関係している緑川は、熊本県のほぼ中央部を東西に貫流する一級河川です。現在の水流は、阿蘇外輪山からの緑川水系と、釈迦院山からの水系である津留川とが甲佐町で合流し、御船川との合流地点である御船町豊秋に向かっています。その後、加勢川などの河川を含み熊本市川尻を経て有明海に注いでいます。

この中で、今回は鶴ノ瀬堰(ぜき)の話をしたと思います。現在の治水システムもそうですが、近世でも水害を免れるための地策や水害後の復旧方法の構築は、常々追求されてきました。それは、地域を支配する大名の治世方針が、直接反映するものです。慶長5(1600)年、肥後一國の領主となった加藤清

緑川の水量を調整するために作られた鶴ノ瀬堰



## 甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(27)～

### 緑川治水と鶴ノ瀬堰

町史編集委員 花岡 興史 (近世)

緑川との僅か3キロの間に挟まれ、大洪水に悩まされてきました。これを解消するため、清正は、旧緑川と旧津留川をかなり上流で合流することとして、東寒野あたりから新川を開削し、旧津留川と合流させたとされています。

この合流により水量豊富となった緑川の水量を調整するためにつくられたのが、鶴ノ瀬堰です。また、ここに取水口を設けて、旧緑川の氾濫(はんらん)地帯を水田化するため甲佐・早川井手を開削し養水確保することにしました。この事業の竣工時期は、慶長12(1607)年と伝えられています。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先  
町社会教育課町史編集係  
☎096・234・3310

## 編集後記

サッカー好きが高じて、J2・Jリーグの観戦に足しげく通って、はや6年。当初は閑散としていた競技場も、今や赤い波が広がる光景が日常に。競技場での楽しみは、試合も当然ながら、興味深いのは、「日本一のスタジアムグループ」を目指して出店している店舗の皆さんのアイデア商品の数々。

地産地消をテーマに県内の来場客の食欲をそそのかすのももちろんのこと、対戦チームの県外からの来場客に「いかに熊本の特産品をPRし、地域のイメージアップをB級グルメで表現するか」という命題への工夫が満載。企業広告スポーツに立脚せず、地域に密着した活動を理念に掲げるJリーグ。各クラブの会場には、その地域の魅力を磨く人々でいっぱい。まずはKKWINGで、地元を再発見する術を楽しんでみませんか。(C)